

民生委員・児童委員による「地域における子育て環境調査」(中間報告) 概要

平成4年5月11日
全国民生委員児童委員協議会
全国社会福祉協議会

I 調査の概要

1. ねらい

近年、子どもをめぐる環境が変化し、子どもの成長や発達に様々な影響をおよぼしている。こうしたなか、社会や地域ぐるみで家庭を支援し、子どもを健やかに育てていくための取り組みをすすめることが求められている。

そこで、家庭や地域等における子育てをめぐる環境についての実態を明らかにし、子どもが健やかに育っていくための環境づくりや支援活動をすすめるための基礎資料を得ることを目的に、本調査を実施する。

2. 調査主体

全国民生委員児童委員協議会、社会福祉法人 全国社会福祉協議会

3. 調査対象

第1子が①就学前、②小学校4年生、③中学校2年生のいずれかである世帯。
各2000世帯、計6000世帯。

4. 実施期間および地域

実施期間 平成4年2月8日～3月28日
実施地域 秋田県、埼玉県、岐阜県、大阪府、山口県、愛媛県、熊本県 (各720世帯)
東京都 (240世帯)
札幌市、広島市 (各360世帯)

5. 調査方法

留め置き調査(記入は主として、母親に依頼)調査票の配布、回収は民生委員、児童委員が行った。

対象の選定については、各都府県・指定都市ならびに市区町村の自治体、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会の協力を得た。

6. 調査実施状況 (単位: 件)

	配布数	回収数 (回収率%)	有効回答数
①就学前児童世帯	2000	1919(96.0)	1668
②小学校4年生世帯	2000	1925(96.3)	1768
③中学校2年生世帯	2000	1940(97.0)	1736
合計	6000	5784(96.4)	5172

II 調査の主な内容

1. 家庭の状況

(1) 家族構成

都市部と市部・町村部に家族形態の差。

全体では約5割が親と子(「両親と子」,「単親と子」)という「2世代家族」であった。地域別でみると、都市部では7割が「2世代家族」であるのに対し、市部・町村部では4割程度であった。この差を反映して、親と子と祖父母という「3世代家族」は、都市部では2割(ただし、就学前児童世帯は1割)に対し、市部・町村部では4割前後であった。

なお、「単親世帯」は全児童年齢階層共通で1%程度であった。〔図1〕

(2) 就労状況

共働き世帯は6割。子どもの年齢にしたがって増加する。

両親とも働いている(パートタイムを含む)世帯は、全体では6割を越えた。就学前児童世帯では5割弱であり、小学校4年生世帯では6割強、中学校2年生世帯では4分の3の世帯となり、第1子の年齢があがるにしたがって、共働き世帯が増えている。

〔図2〕

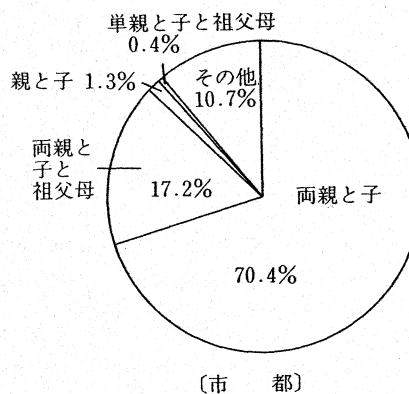
2. 家族・親族の子育てに対する協力の状況

(1) 夫婦間の子育て、家事の役割分担

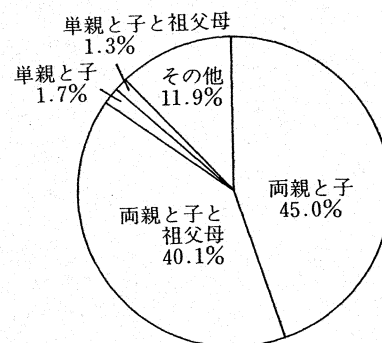
仕事も、家事も、育児も同等というニューファミリーは、幻想?
母親に重い負担。

子育て全体の夫婦間の役割分担について、母親の評価は、どの児童年齢層でも、8割以上が「ほとんど妻が担っている」,「やや妻の方が多く分担してい

図1 (都市部)



(市部)



(町村部)

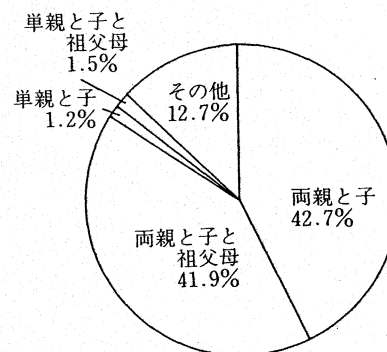
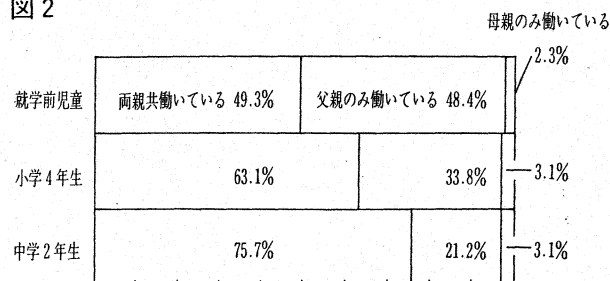


図2



る」となった。これは、都市部と市部、町村部でも差異がない。「ほとんど妻が担っている」だけでも4割程度であり、就学前児童世帯では5割である。家事についてはこの傾向がもっと強くなり、2つの回答で9割以上になり、「ほとんど妻が担っている」だけでも75%を越えている。〔図3〕

(2) 父親の子育ての役割

でも、お父さんもがんばっています。世話を遊び、相談相手に。

具体的な子育ての内容についての質問では、「よくする」と「ときどきする」で7割を越えた回答があったのは、就学前児童世帯では「世話をしつけ」、「遊び・おしゃべり」、小学生以上では「相談相手」の項目であった。

「勉強」については小学校4年生世帯では6割をこの2つの回答で越えているが、中学校2年生世帯では5割弱となっている。〔図4〕

図3

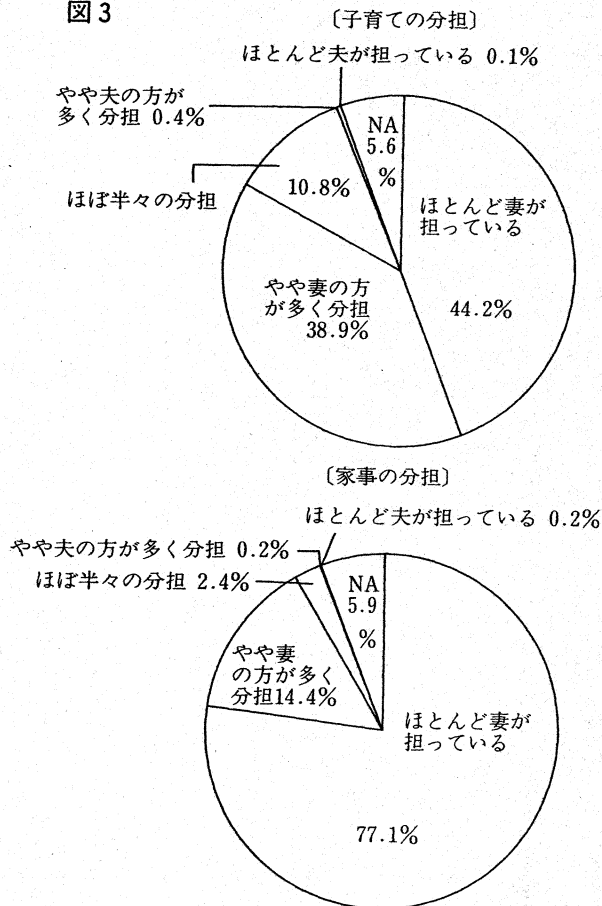
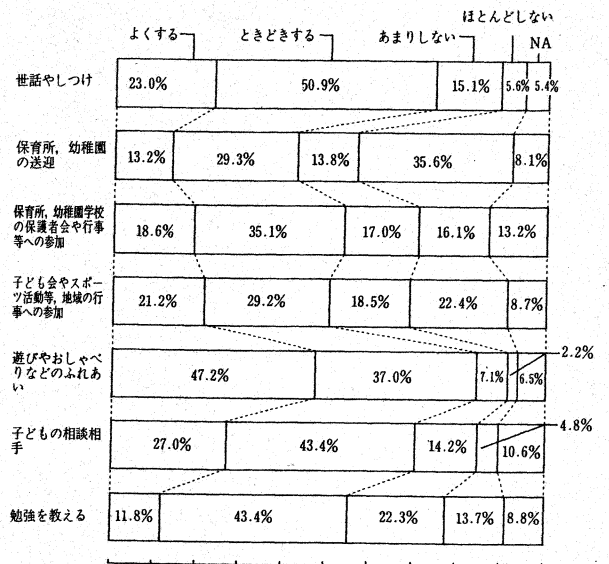


図4



3. 近隣との子育てにおけるつきあいや協力の状況

(1) 親子ぐるみのつきあい

親子ぐるみでおつきあひしたり、子どもを預かったりする家族があるのは約半数。

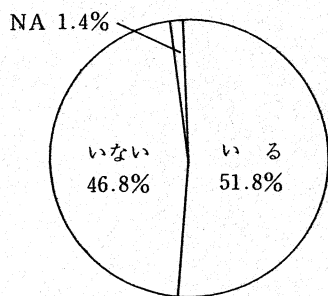
親子ぐるみで出かけたり、遊んだりする家族が「いる」と回答した人は、地域や児童年齢の差なく約半数であった。そうした家族は、「近所の人」がどの児童年齢、地域でも最も多く、さらに「学校や幼稚園、保育所を通じて親しくなった人」、「学生時代の友人」、「仕事を通じて知り合った人」が多い。

この点を詳しくみていくと、まず第1子児童年齢で多少の順位差がみられる。就学前児童世帯では、第2位に「学生時代の友人」がくるのだが、小学校4年生と中学校2年生世帯では「学校を通じた人」が第2位となる。

地域でも、差異がみられ、都市部では第1位がいずれの年齢でも「学校や幼稚園、保育所を通じて親しくなった人」となるのに対し、市部と町村部では「近所の人」となる。〔図5〕

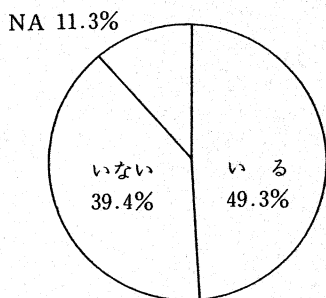
遅くなる時や、出張などの、何かのとき子ども(小学生以下)を預かってくれる人が「いる」という回答も約半数であった。この場合の相手先の家族は、いずれの児童年齢、地域とも共通して「近所の人」が第1位であり、「学校や幼稚園、保育所を通じて親しくなった人」が第2位であった。〔図6〕

図5 (家族ぐるみで出かけたり遊んだりする家族)



	就学前児童		小学4年生		中学2年生	
1位	近所の人	(%) 46.2	近所の人	(%) 50.2	近所の人	(%) 54.3
2位	学生時代の友人	40.1	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	48.1	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	40.0
3位	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	39.6	学生時代の友人 仕事を通じて親しくなった人	25.0 25.0	仕事を通じて親しくなった人	39.6

図6 (何かのとき子どもを預かってもらえる人)



	就学前児童		小学4年生		中学2年生	
1位	近所の人	(%) 58.4	近所の人	(%) 63.1	近所の人	(%) 67.7
2位	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	35.8	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	36.1	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	24.9
3位	学生時代の友人	8.8	仕事を通じて親しくなった人	6.1	仕事を通じて親しくなった人	7.6

(2) 子育てについての相談

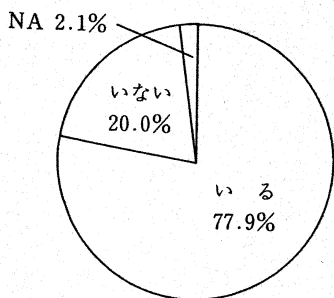
子育ての相談ができる人がいる人は約8割弱。

子育てについての相談ができる人が「いる」と回

答した人は、各児童年齢、地域とも共通して8割弱から8割、「いない」人は2割となった。

相談相手は、「近所の人」、「学校や幼稚園, 保育所を通じて親しくなった人」が全体のなかで多く、ついで「学生時代の友人」、「仕事を通じて知り合った人」となる。〔図7〕

図7 (相談できる人)



	就学前児童		小学4年生		中学2年生	
1位	近所の人	(%) 53.0	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	(%) 56.2	近所の人	(%) 47.0
2位	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	52.0	近所の人	49.0	学校や幼稚園, 保育所を通し親しくなった人	46.2
3位	学生時代の友人	35.0	仕事を通じて親しくなった人	27.0	仕事を通じて仕事をなした人	34.4

4. 子育てに関する施策・サービスの利用状況、ニーズ

(1) 相談機関・サービスの認知状況

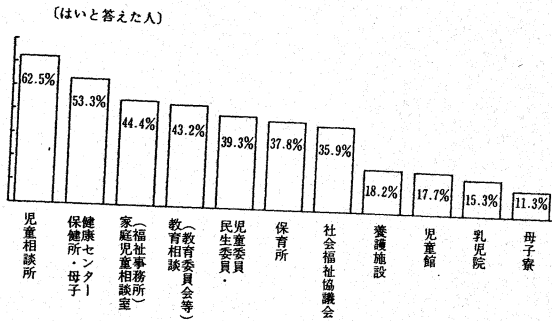
子育て相談については、「児童相談所」のみが6割以上に認知。「教育相談」は、該当する小学校4年生、中学校2年生が第1子である世帯で半数程度の認知度。

子育て相談については、「児童相談所」のみが児童年齢や地域にかかわらず6割以上（就学前児童世帯では7割）から認知されていた。ついで、「保健所・母子健康センター」と「教育相談」の認知度が高い。「保健所・母子健康センター」は、就学前児童世帯では7割近い認知度を得ているものの、小学校4年生世帯では55%、中学校2年生世帯では45%の認知度である。

その他の諸機関では、「家庭児童相談室」が就学前児童と小学校4年生の世帯で5割を越え、「保育所」が就学前児童世帯で5割を越えた以外、半数以下の認知度であった。

なお、「民生委員・児童委員」の認知度は、いずれの児童年齢階層でも4割台であった。〔図8〕

図8

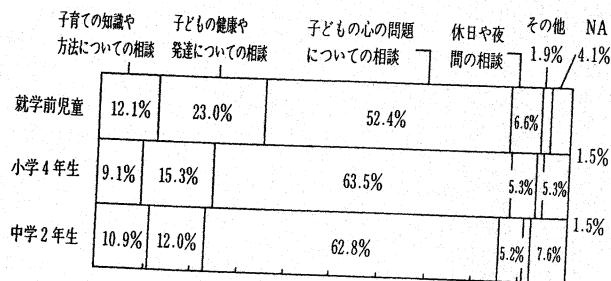


(2) 必要な子育てに関する相談

就学前児童世帯でも子どもの心の問題に関するニーズ。

子育て相談に関して充実すべき施策の第1位は、いずれの年齢階層でも「子どもの心の問題についての相談」であり、就学前児童が第1子である世帯でも5割以上がこの項目に回答し、小学校4年生や中学校2年生世帯では6割を越えた。〔図9〕

図9 (子育てに関する相談について)

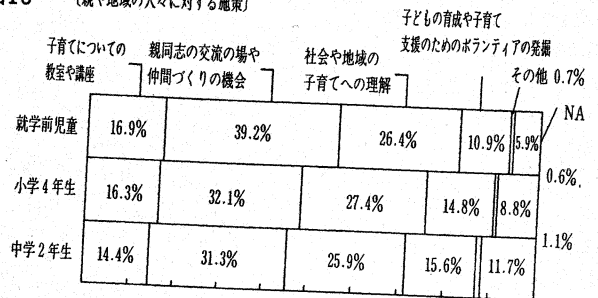


(3) 必要な親や地域に対する施策

求められる子育てネットワークづくりの支援。

親や地域の人々に対する施策では、いずれの児童年齢階層、地域でも「親同志の交流や仲間づくりの機会」が必要とする回答に3割、「社会や地域の子育てへの理解、協力等の啓発」に3割弱の回答が寄せられた。〔図10〕

図10 (親や地域の人々に対する施策)



(4) 地域の活動、プログラムへの子どもの参加状況

子どものための活動やプログラムには積極的に参加。ボランティアにも可能性、機会の提供が求められる。

地域で実施される子どものための活動やプログラムには、小学校4年生、中学校2年生世帯とも9割近くが「参加させ(し)たことがある」と答えている。就学前児童世帯では約6割であり、就学前児童むけの活動、プログラムの状況について点検して見る必要がありそうである。内容的には「スポーツ活動」や「遊びやレクリエーション、自然との触れ合い活動」が多くなっている。

この傾向は、ほぼ今後「参加させたいと思うもの」に反映される。ただし「老人や障害者との交流やボランティア活動」は、小学校4年生や中学校2年生世帯では、全体の4割の親が「参加させたい」と考えているが、実際に参加経験があるのは、小学校4年生で9%、中学校2年生で14%であり、今後機会の提供が期待される。〔図11〕

図11

〔子どもを参加させたことの有無〕

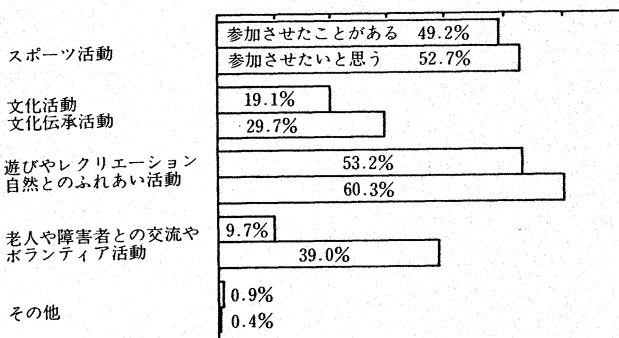
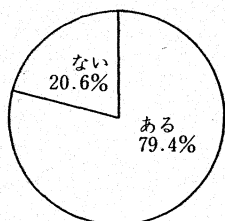
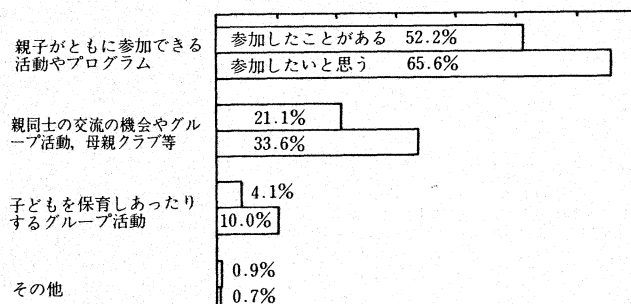
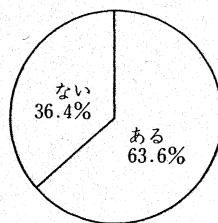


図12

〔親が参加したことの有無〕



(5) 子育てのための活動やプログラムへの親の参加状況 (問15)

親子の共通体験やふれあいが大切。

地域で実施される子育てのための活動やプログラムで、親が「参加したことがある」と答えた人は、小学校4年生と中学校2年生世帯で約7割、就学前児童世帯では約5割であった。内容としては、これまで「参加したことがあるもの」、今後「参加したいと思うもの」とも、最も多いのは「親子がともに参加できるプログラム」であり、第1子の年齢による差異もほとんどみられなかった。(図12)

5. 子どもの放課後等の状況

(1) 放課後の心配 (問18)

三種類の心配 — 遊び時間、遊び方、安全に関わる心配。

小学生以上の子どもを持つ親の放課後の心配ことについて回答をしてもらったところ、「遊びに行く」と帰宅が遅くなる、「友達と遊んでばかりいる」といった項目(中学校2年生を第1子に持つグループでは、「部活動ばかりしている」にも印が多い)を多くの人があげた。これらは、遊びと勉強や日常生活との

図13

(複数回答)

	遊びに行く と帰宅が遅くなる	戸外で遊ぶ うとしない	友だちと遊ば ない、うまく遊 べ	友だちと遊ん でばかりいる	きょうだいだ けのことがある 家に帰った時 1人だけ、また は	家族と過ごそ うとしない	塾や習いごと に行かない、行 き	部活動(課外) に参加しない	部活動(課外) ばかりしている	その他	N A	合計
小学4年生	(%) 24.2	19.6	7.7	11.9	16.3	1.0	7.8	3.4	2.1	9.7	39.0	1,768件 100.0
中学2年生	(%) 20.2	15.2	5.3	12.6	14.7	2.7	5.6	5.9	14.2	6.5	25.0	1,736 100.0

バランスに関する心配である。

また、「戸外で遊ぶとしない」も全体のなかで多くあげられた項目である。これは、遊び方の心配である。

「家に帰った時1人きり、またはきょうだいでだけのことがある」も、全体のなかで回答が多かった。これは、子どもの安全に関わる心配につながるものといえる。〔図13〕

6. 子育ての意識

(1) 子育ての楽しさ、大変さ

子育ては、楽しくもあり、大変でもある。

子育てについて、就学前児童世帯の平均は、10ポ

図14

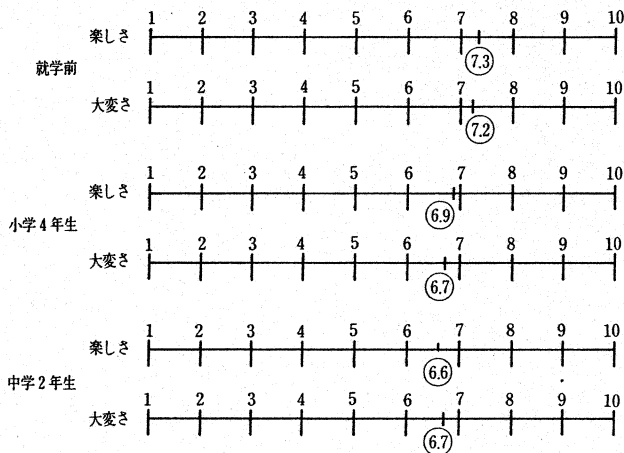
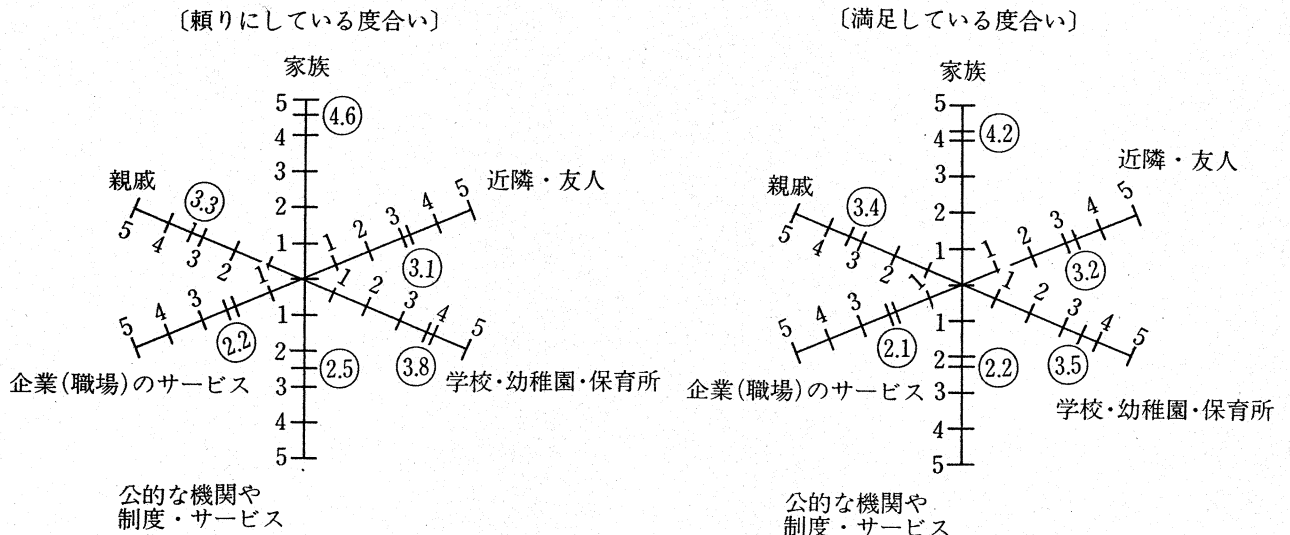


図15



イント評価で「楽しさ」が7.3で、「大変さ」が7.2であった。小学校4年生世帯では、6.9と6.7、中学校2年生世帯では6.6と6.7であった。〔図14〕

(2) 頼みにしている協力者、サービス

頼りは、家族。親戚よりも学校、幼稚園、保育所が期待されているが、満足度は親戚が安定。

頼りにしている度合いでは、5ポイント評価で「家族」に対する期待が、いずれの児童年齢層でも4ポイント後半で最も多く、次に頼りにされているのが「学校、幼稚園、保育所」で3ポイント後半であった。「親戚」と「近隣・友人」は3ポイントから3ポイントの前半であり、「公的な機関や制度・サービス」と「企業(職場)のサービス」は2ポイント台であった。

この期待度に対して、満足度は、家族がいずれの児童年齢層でも4.2ポイントで最も多いが、期待度よりは低くなっている。ついで「学校、幼稚園、保育所」が高いが、やはり期待度より低く、児童年齢があがるにつれて、3ポイント後半から前半となる。「親戚」は、期待度と満足度に差がない。「近隣・友人」、「公的な機関や制度・サービス」と「企業(職場)のサービス」も同様である。〔図15〕